

<教育サポート報告>

対馬一男、宮崎武志、工藤好騎、多々見文恵

【教育の現場】

主催者：寿都町教育委員会

行事名：自然体験サバイバルキャンプ

日時：平成16年8月6日（金）13:00 集合

平成16年8月8日（日）12:00 解散

場所：旧湯別小学校および朱太川、浜中海岸ほか

参加者：小学5年生から高校1年生まで18名

講師：北越正生、佐藤芳伸、板谷利久

対馬一男、工藤好騎、多々見文恵（自然科学教育分科会）

柴田登、安田伸生、岡田操、宮崎武志（地域活性化分科会）

【授業のねらい】

寿都町の豊かな自然を身体で感じながら、歴史や特徴について学習し、郷土への興味や関心を育む。

【授業の内容】

8月6日（金）13:00～21:30

体験Ⅰ・・・磯遊び（教育委員会）

体験Ⅱ・・・①空中散歩－空から見た寿都町－（佐藤）

体験Ⅲ・・・ホテルのお話（早瀬教育長）

8月7日（土）6:00～17:00

体験Ⅳ・・・②川の流れの速さを測ってみよう（北越・岡田）

③パックテストで水質を調べてみよう（多々見・対馬）

④河床の様子を調べてみよう（宮崎・工藤）

⑤川の生き物を調べよう（板谷）

⑥投網体験（板谷）

体験Ⅴ・・・⑦海岸林を調べてみよう（安田）

⑧真水と海水の違いを調べてみよう!!（板谷・多々見）

⑨砂山で水の流りを調べてみよう（柴田・岡田）

⑩海岸の砂の粒子を調べてみよう（宮崎・工藤）

⑪地盤液状化実験ボトル「エッキー」（対馬）

## ハマグリ捕り（教育委員会）

8月8日（日）6:00～13:00

体験Ⅵ・・・⑫砂粒子観察（宮崎・工藤）  
ふりかえり（教育委員会）

### 【感想】

二泊三日にわたり12種類もの授業が行なわれた今回の教育サポートは、当分科会としてはこれまでにないビッグなサポートでした。

初日の空中散歩における驚きの立体画像に始まり、翌日の朱太川に浸かりながらの実験・観察・体験コーナーは講師陣の私達にとっても心底から楽しめたおもしろい企画でした。午後からは浜中海岸に移動しての授業でしたが、ここでも多くの実験・観察が披露され今後のサポートネタもしばらくは安泰かなという印象を持ちました。終盤に子供達の集中力の途切れをいささか感じましたが、さすがに海を目の前にしながらオアズケ状態での授業でしたので無理もないことでしょう。

現地学習のメリットは浜の砂を実際に手で触ったり、川の水温を肌で感じたり、バーチャルではない動植物を自分の目で確かめたりできることです。教育サポートを通じてそういう体験を伝えることができ、更に子供達の歓声があれば講師としても言う事はありません。ただ、教育長さんのお話によると、最近の子供はなかなか人前では率直なアクションを取らないようです。特に田舎の子にはその傾向が強いとおっしゃっていました。それでも、授業では「よく見える!」、「僕もやってみたい。」、「手品みたい。」という感想を耳にすることができました。

最終日のふりかえりでは子供達ひとりひとりに感想を言ってもらいました。それを聞いて感じたことは、映像や色などを使った授業が子供達には強いインパクトを与えたようです。また、「水深ごとに流速が違う」とか「場所によりCODが違う」というような比較した結果が明確にわかるものに興味を示したようです。確かにこれらのことは大人にも言えることだと思いますし、専門家にうけないネタは子供達にもすぐに飽きられるようです。これからはこのようなことも頭の隅に入れてネタ作りを進めていくことがポイントだと思います。

最後に、教育委員会の鎌田さんのメールにも書かれていましたが、子供達との距離を少しでも縮める努力をすることも大事なことだと思います。キャンプファイヤーに参加したり、彼らの名前を覚えたりする姿勢が必要であったと反省しています。